

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	【特別散布】 発芽前	スプレーオイル	3. 3ℓ	発芽前	—	300	カイガラムシ類	①カイガラムシ類多発園は、アプロードフロアブルの 1,000 倍(7日前、2回)を加用する。
月 日	【特別散布】 開花前	樹幹散布 フェニックスフロアブル	200mℓ	開花期まで	1回	10a当り 5～200ℓ	コスカシバ	①樹幹部及び主枝に散布する。
月 日	開花直前	① 展着剤 オーシャインフロアブル サムコルフロアブル 10	20mℓ 33mℓ 40mℓ	前日 前日	5回 3回	350	ハマキムシ類 灰星病(花腐れ)	①ウメシロカイガラムシ(アブラムシ類)が発生する園ではバリアード顆粒水和剤の 4,000 倍(前日、2回)を加用する。
特別散布：開花期間中に、灰星病(花腐れ等)の発生が心配される場合は、ベルクートフロアブル 2,000 倍(7日前、3 回)を散布する。								
月 日	落花期 訪花昆虫 引き上げ後	② アーデントフロアブル ナリア WDG	25mℓ 50g	前日 前日	3回 3回	400	オウトウショウジョウバエ 灰星病 炭そ病 黒斑病 幼果菌核病	①この散布はミツバチへの影響が大きいため、ミツバチ引き上げ後に散布する。 ②昨年マンガン欠乏、ホウ素欠乏が発生した園地は葉面散布剤の混用を検討する。
特別散布：【灰星病対策】ベルクートフロアブルの 2,000 倍(7日前、3 回) 【ショウジョウバエ類対策】バイスロイド EW の 4,000 倍(7 日前、2 回)を散布する								
月 日	肥大期 【果実黄化前】	③ オンリーワンフロアブル コテツフロアブル	50mℓ 50mℓ	前日 14日前	3回 2回	500	灰星病 炭そ病 ナミハダニ	①オウトウショウジョウバエの発生が心配される場合は、コルト顆粒水和剤の 10,000 倍(前日、3 回)を加用する。
月 日	収穫終了後	④ 展着剤 ダニコングフロアブル キンセツ水和剤 80 スプラサイド水和剤	20mℓ 50mℓ 100g 66g	前日 収穫後～落葉期 7日前	1回 3回 3回	500	ハダニ類 せん孔病 カイガラムシ類 (ケムシ類)	①褐色せん孔病の発生園では、アミスター10フロアブルの 1,000 倍(前日、3回)を特別散布する
特別散布：【カイガラムシ類幼虫対策】 アプロードフロアブル 1,000 倍(7日前、2 回)を枝幹部に散布する。								
月 日	除覆10日後 【6月中旬】	⑤ 展着剤 オキシラン水和剤 ダイアジノン水和剤 34	20mℓ 166g 100g	収穫後～落葉期 14日前	3回 2回	500	せん孔病 アメリカシロヒトリ ハマキムシ類	①ナミハダニを増やさないために、下草を除草する。
月 日	7月上旬 (前回から14日後)	⑥ 展着剤 コロマイト乳剤 トレノックスフロアブル アルバリン顆粒水溶剤	20mℓ 100mℓ 200mℓ 50g	7日前 21日前 前日	1回 5回 2回	500	ハダニ類 褐色せん孔病 カメムシ類	①アザミウマ類が多発しないよう、除草を定期的実施する。
月 日	7月下旬 (前回から14日後)	⑦ 展着剤 オキシラン水和剤 スプラサイド水和剤	20mℓ 166g 66g	収穫後～落葉期 7日前	3回 3回	500	せん孔病 カイガラムシ類 カメムシ類 (ケムシ類)	
月 日	8月上中旬 (前回から14日後)	⑧ 展着剤 カネマイトフロアブル トレノックスフロアブル	20mℓ 100mℓ 200mℓ	7日前 21日前	1回 5回	500	褐色せん孔病 ハダニ類	①8月中旬以降にハダニ類の発生がある場合は、ダニゲッターフロアブルの 2,000 倍(前日、1回)を特別散布する。＊ダニゲッターフロアブルは開花期の水稲にかかると不稔等の薬害が生じるため、飛散しない
月 日	9月上中旬	⑨ 展着剤 スミチオン乳剤 トレノックスフロアブル	20mℓ 100mℓ 200mℓ	21日前 21日前	2回 5回	500	褐色せん孔病 ハマキムシ類 アメリカシロヒトリ (コスカシバ)	①樹体が弱い場合は、スミチオン乳剤に代えてスミチオン水和剤 40 の 800 倍(21 日前、2 回)を使用する。 ②コスカシバが発生する場合は、落葉後にラビキラ一乳剤 200 倍(落葉後～発芽前、1 回)を樹幹部及び主枝に十分散布する。